

令和7年度海洋ごみ対策セミナー事後アンケート集計結果

1. 実施要領

実施期間：令和7年10月29日～令和7年11月28日

①セミナー参加者：143名

②対象人数：106名（セミナー申込時にメールアドレスを登録した人数）

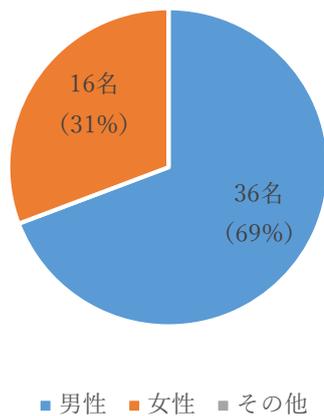
③アンケート回答数：52名

回答率：36%（③回答数/①参加者）

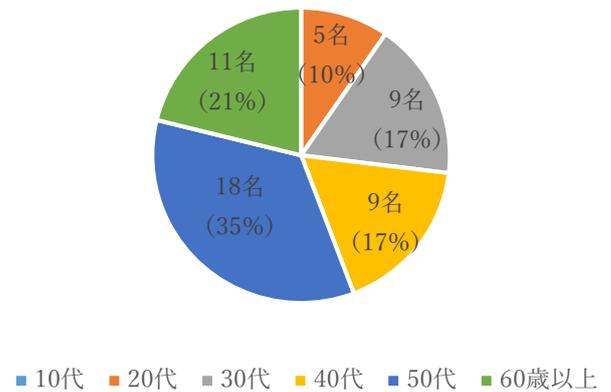
49%（③回答数/②対象者）

2. 集計結果

Q1.性別をお答えください

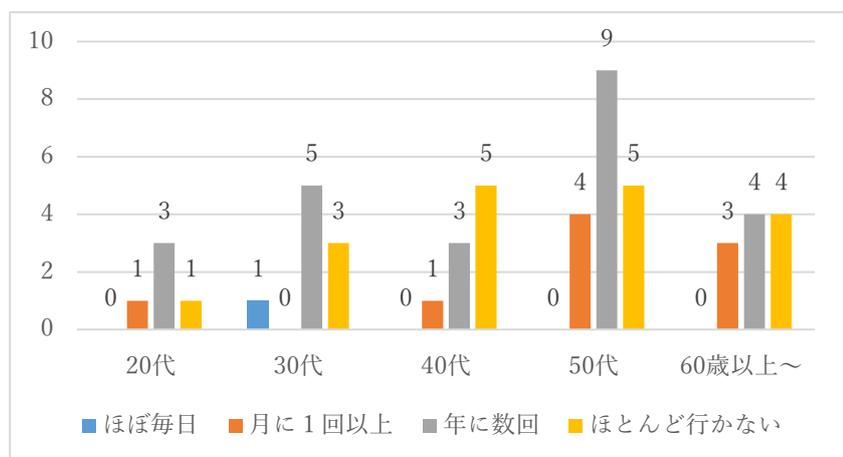
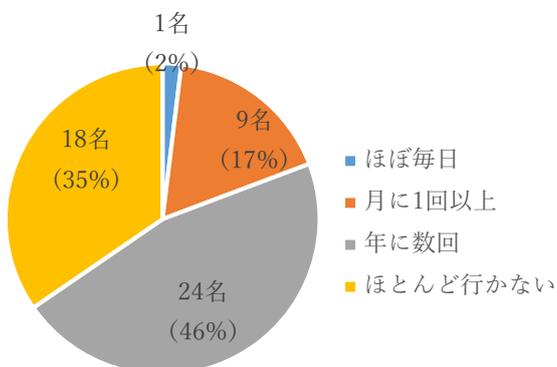


Q2.年齢をお答えください



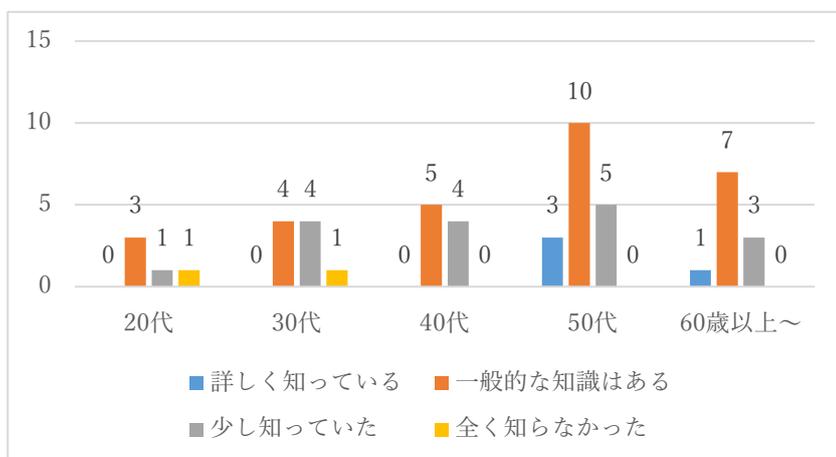
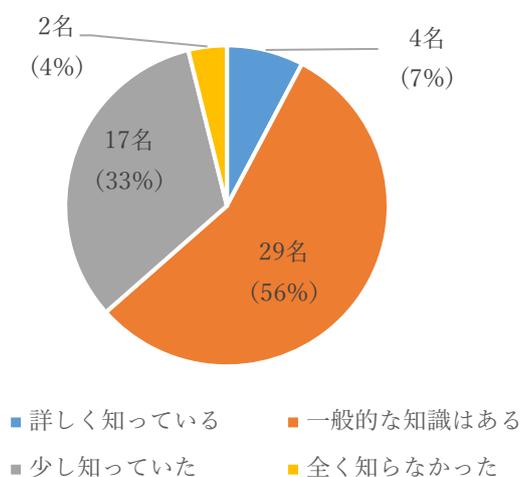
参加者に10代はいたが、回答者は無し

Q3.海にはどれぐらいの頻度で行きますか



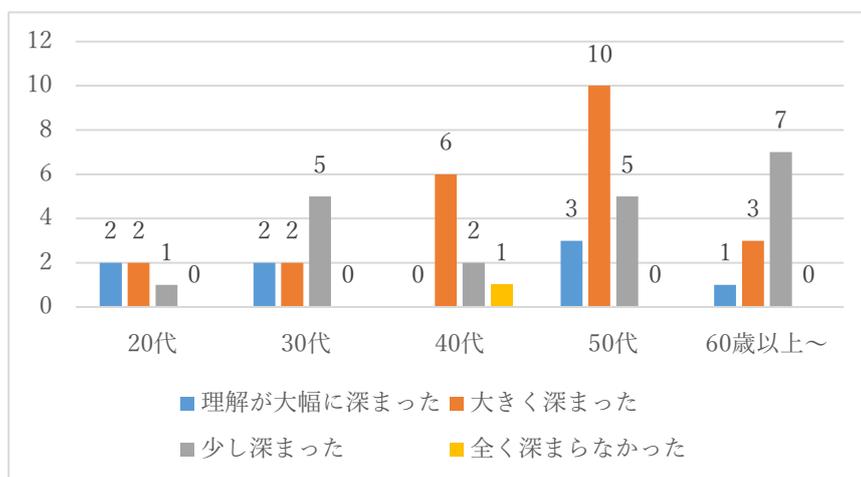
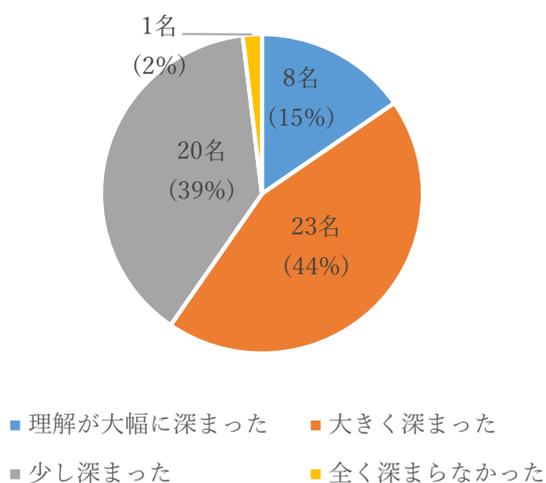
約80%はあまり海に行かないが、海洋ごみに関心があることが推察される。

Q4. セミナー参加前に、海洋ごみの問題についてどの程度の知識がありましたか。



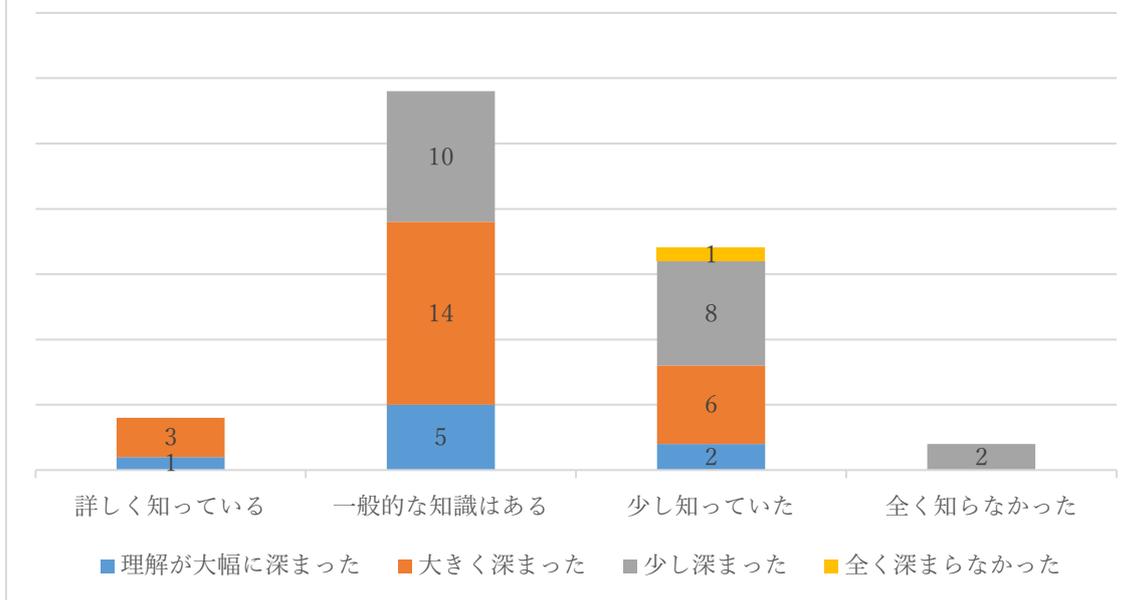
「一般的な知識はある」が最も多く、次に「少し知っていた」が続く。セミナー参加者の約90%が海洋ごみ問題について一定の知識を持っている。年代別でも同様の傾向であり、年代による海洋ごみの知識の差は無く、広く一般的な問題として認識されている。

Q5. セミナー参加後、海洋ごみ問題について理解が深まったと感じますか



ほとんどの参加者から理解が深まったという回答があり、セミナーの効果が確認できた。年代別で見ると、40～50代で「大きく深まった」の割合が高い。「全く深まらなかった」という回答については、セミナー前の知識と比べて次のセクションで分析している。

Q4からQ5の理解度意識変化



セミナー前の知識の違い別にセミナー後の理解度の意識変化を表にまとめた。

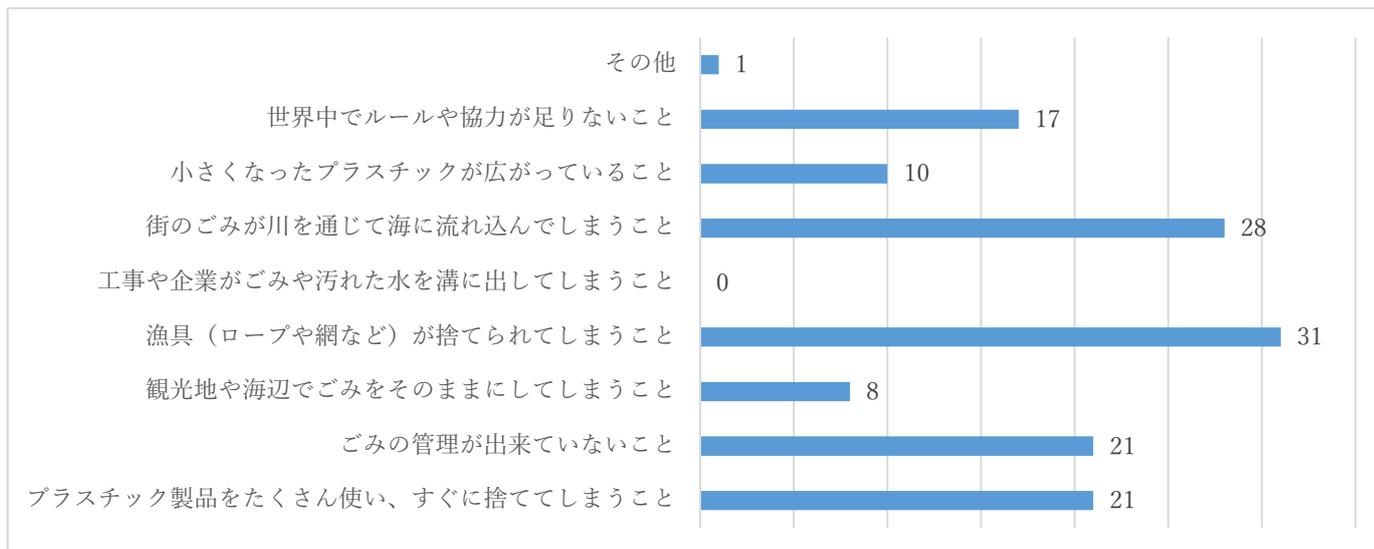
「詳しく知っている」参加者は更に理解度が上がっている。

セミナー前に「一般的な知識はある」又は「少し知っていた」参加者では、それぞれ理解度が異なる傾向が見られる。また、「少し知っていた」参加者からセミナーでは「全く深まらなかった」との回答があり、内容が伝わらなかったことが考えられる。

セミナー前に「全く知らなかった」参加者は「少し深まった」と回答があった。

これらを総括すると、セミナーはある程度知識のある人向けの内容となっている可能性がある。

Q6.海洋ごみの主な原因は何だと思いますか（最大3つ）

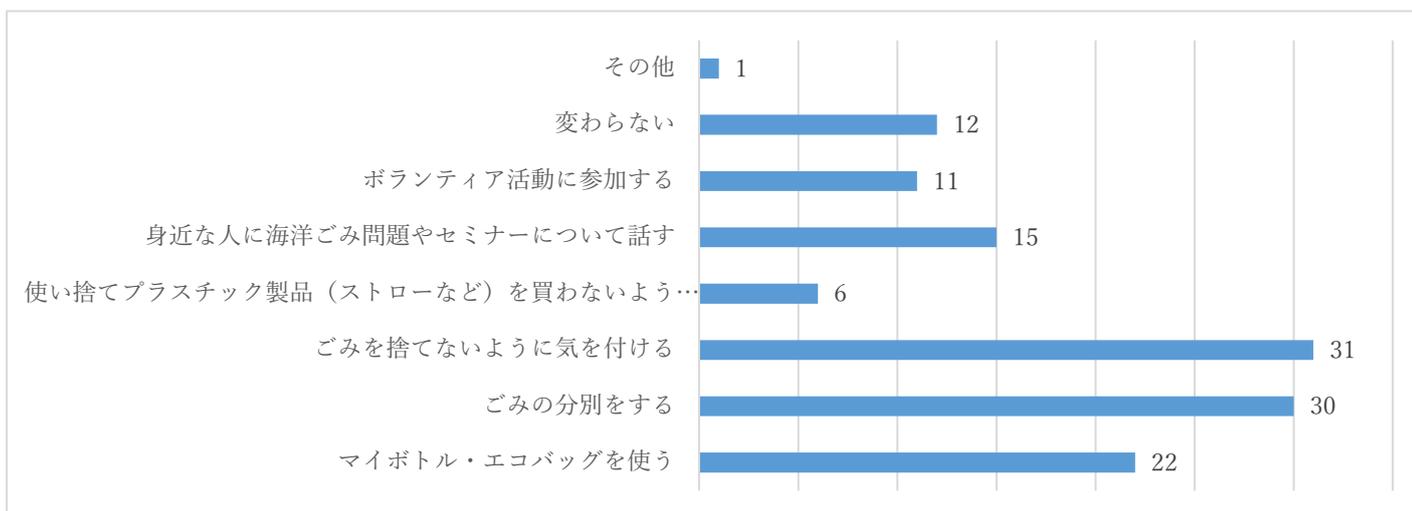


その他意見

・家庭排水や地域から出るゴミや家庭排水も水質汚染に繋がっている。

漁業系ごみや生活系ごみは、海洋ごみの主要な発生源であり、特に生活の場面において、日頃のごみの管理不足や使い捨て文化が影響していると認識している。また、「世界中でルールや協力が足りない」と考える参加者が多く、日本以外での発生原因にも関心を持っている。

Q7.セミナー後、海洋ごみ削減のために以下の行動を実践しましたか（複数回答可）

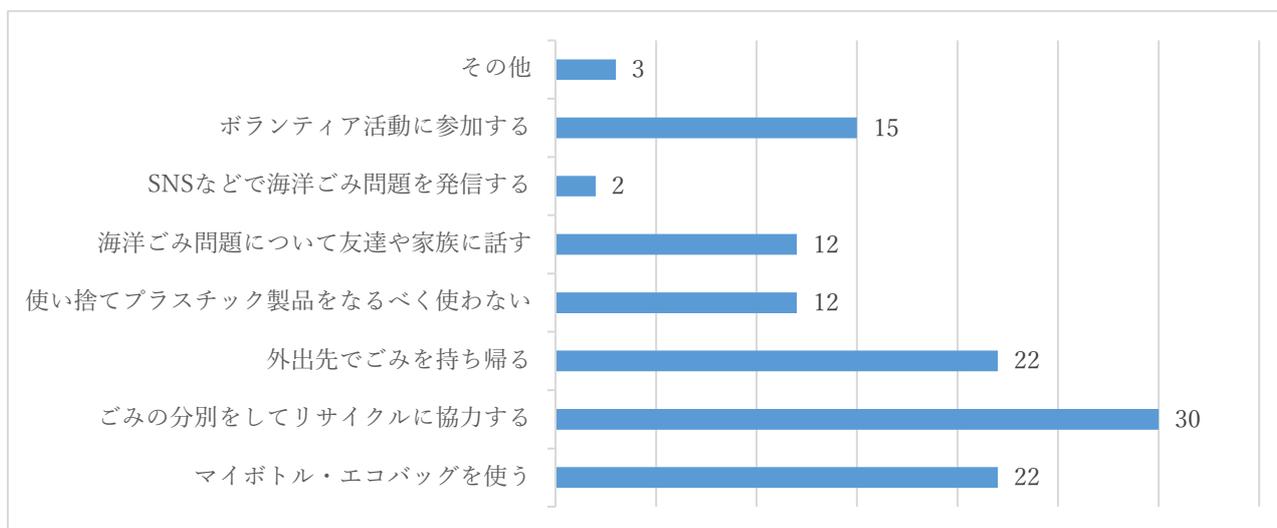


その他意見

・セミナー以前にビーチクリーン活動や環境活動を行っています。

セミナー参加後は日常生活で実践可能な行動に取り組んでいる割合が多く、続いて外部への発信やボランティア活動への参加に繋がっている参加者も見られている。

Q8.今後、海洋ごみ削減のために続けたいと思う具体的な行動を教えてください（最大3つ）



その他意見

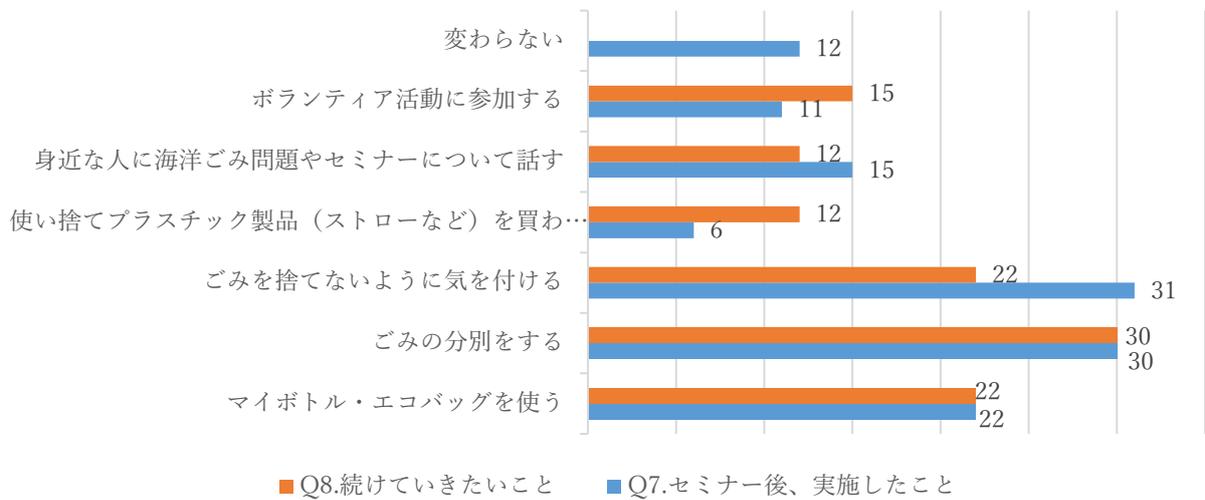
・とくになし

・今、うちの会社は環境活動を行うのが仕事です。本社は福岡県ですが環境に優しい環境を変える洗剤を製造し、その技術を活かして日本各地で地域洗剤®を立ち上げていくリジェネラティブなプロジェクトを行っています。

・河川でゴミを拾う取り組み

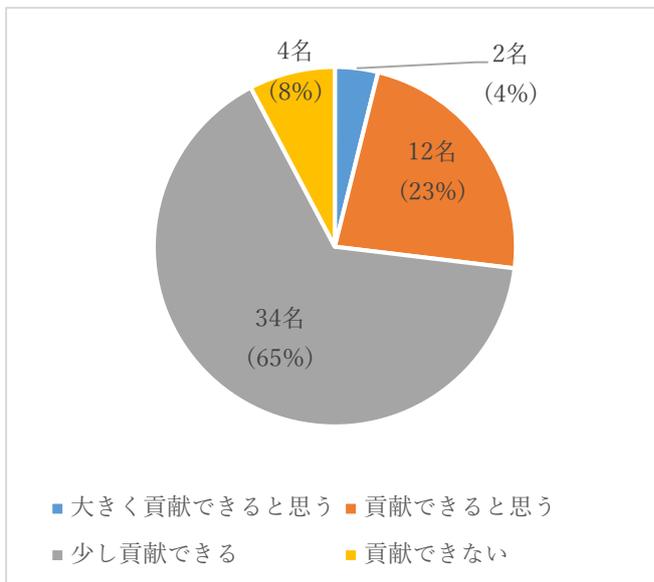
セミナー後の実践行動と同様な傾向にあり、「ごみの分別をしてリサイクルに協力する」や「外出先でゴミを持ち帰る」「マイボトル・エコバッグを使う」など、参加者が日常的に取り組める簡易なアクションが多い。「ボランティア活動への参加」や「使い捨てプラスチック使用の見直し」など、海洋ごみ対策に一步踏み込んだ行動を継続したいなど、社会課題の解決に向けた意見もあった。

Q7からQ8からの行動変化



「ごみの分別をする」「ごみを捨てないように気を付ける」は多くの人々がセミナー後に実施し継続したいと考えている。その一方、「使い捨てプラスチック製品を買わないようにする」「ボランティア活動に参加する」を実践する人は少ないが、継続したいと考えている人の割合は高い。

Q9.あなた自身の行動が海洋ごみ問題の解決にどれぐらい貢献できると思いますか。



参加者の多くが自身の行動には一定の効果があると感じているものの、それが問題解決に大きく繋がると感じる人が少なく、参加者は海洋ごみ問題の大きさを認識していると推察する。

Q10.ご意見やご感想をご自由にどうぞ

・海洋ごみが発生する理由は、ごみを不法投棄することが原因であり、レジ袋等のプラスチック製品が直接の原因ではないと思います。プラスチック製品等を使わないようにする、ということもごみ削減の解決方法の1つになるかと思いますが、まずは「ごみを不法投棄しない」ということを共通認識として、日本のみならず諸外国にも発信していく必要があると考えます。原因を元から絶たなければ、海洋ごみは無くならないと思います。

・今回のセミナーは報告会だったため残念に感じました。それとトイレ休憩で三分の一くらいは人が少なくなったので（大半居なくなったのは、宇和島市職員です）トイレ休憩は無しにした方が良いと思います。

・市内の活動している団体の方の発表も素晴らしいですが、**全国の海ゴミ対策事例発表（NPO 法人、日本財団など）**からの発表も聞きたいなと思いました。また、環境に優しい洗剤やスポンジや正しいリサイクル方法など個人でできる**海ゴミ対策方法の紹介があると良いな**と思いました。あと、今回の質問でもありましたが、海ゴミ清掃への参加方法について、実際に海ゴミ活動に参加する方法・活動メンバー募集などがあると、セミナーを聞いて「海ゴミ参加したい！」という意欲のある方がそのまま参加できる流れができて良いかなと思いました。

・専門家による講義など有意義な内容でしたが、全体的な時間設定が少し長いと思います。同日に市内で複数のイベントが開催されており、途中で退席しましたが、小学生がポスター制作を通じて海洋ごみや環境問題に関心を持つことは大変良いことだと思います。

・様々な団体が海岸清掃を継続していることを知り、活動に参加したいと感じさせるセミナーでした。

・各河川に漂流ゴミを留める設備を設置してはどうか？

・一人ひとりが、ゴミについて分別、処理方法等を考えて適切に対応していく事のたいせつさを感じました。ボランティア活動している人は、素晴らしいと感心させられました。

・活動に参加したいと思います。

・宇和島市が海洋ごみ対策を推進していることを知り、自分もできることをより増やして一緒にきれいなごみのない海になるように頑張りたいと思いました。

・宇和島在住で福岡県に本社を置く(有)がんこ本舗(株)dochaku に席を置いております。この海洋環境問題は人間にとって目を背けられない大きな問題だと思います。次の世代、またその次にへと昔の綺麗な海洋資源や豊かな海を繋げて行かないといけないと思っております。

・ゴミ問題の見識を深めるために、こういう機会があればまた参加してみたい

・一私人では出来ることには限りがありますが、だからと言って何もしなければ改善は出来ません。出来ることからやっていくこと。そして、今のままでは未来がとんでもないことになることをみんなで考えたいです。

・今の現状を、たくさんの人に知ってもらう事が必要だと思います。

・学術的、専門的な話をもっと聞けるとありがたいし、一緒に聞く人を誘いやすくなると思います。宇和島に居ながらも、知的好奇心が高められる機会があると市民はもっと参加すると思います。またここ数年、宇和島以外でも何度か海浜清掃ボランティアに参加しましたが、養殖業で使われるバールやロープ類のゴミの多い事に驚きました。ゴミの回収手法やボランティアの取り組みだけでなく、海洋ゴミの原因になり得る**漁業系プラスチック類の排出を規制する条例を策定するなど、罰則はなくても、原因を抑える法的な面を整備する事も大事か**と思います。宇和島での取り組みが、同じくリアス海岸や上陸困難離島のある世界の国々から注目されるよう、これからも応援しています。世界に先駆けた取り組みが出来たらいいですね。

・セミナーの内容事態は、講師の方が来場者の方に呼び掛けたりして聞きやすかった。

ただ、人や資金や場所が足りないという発言があったのだから、**来場者の方が海ゴミ清掃に興味をもった場合、どこを見ればボランティアの募集状況が分かるのか、補助金を活用して自分達が主となって活動する方法、労力を出せないが財力のある人が寄付する先など、次につながる仕掛けがあるとよりよいのかな**と思いました。

・セミナー参加者が毎回同じ人が来てマンネリ化している。

・複数回、参加すると、内容が重複していたりして、だんだん興味をもって講演を聞くことが難しくなってきました。参加されている方も同じような顔ぶれの方たちが多いような気がしました。

3. アンケートのまとめ

セミナー参加者の約 90%が事前に海洋ごみ問題について一定の知識を持っており、セミナー後には「大きく深まった」「理解が大幅に深まった」と感じる回答が半数近くを占めた。特に 40 代・50 代の参加者で傾向が顕著であり、セミナーが既に海洋ごみ問題に関心を持つ層の知識を深める役割を果たした。しかし、若い世代（10 代・20 代）への海洋ごみ問題の知識・理解度が低いため、幅広い層に情報を届ける必要があると思われる

参加者の実践行動では、「ごみを分別する」「ごみを捨てないように気を付ける」など日常的に取り組みやすい行動が多く取り組まれ、さらに継続したいと考える割合も高い。一方で、「使い捨てプラスチック製品を買わない」「ボランティア活動に参加する」といったより積極的な行動の実践者は少ないものの、継続意欲の高さが示された結果となった。

海洋ごみの主な原因として、「漁業系ごみ」「生活ごみ」「不法投棄」が多く挙げられ、使い捨て文化やごみの管理不足が問題の根本にあると認識していることが明らかになった。同時にグローバルな課題にも関心を寄せており、国内外の広範囲な対策の必要性が示された。

今後は若年層へのアプローチを進めることで、より幅広い世代の環境意識を高め、社会全体で海洋ごみ対策を推進し持続可能な取組を広げる必要がある。